

水

一画一画丸みのある線で
ゆっくり書く

円勢

獨

肩をおとし丸く

はねは止める
はらわれない

樂

両松いは長く下へ
重心を低く
構える

尊

両松いは
長く下へ

山

「鄭義下碑」の倣書で書いています。
各文字は空間を包むように大回りに運筆し、
点画にはまるみを持たせています(円勢)。
字形は、やや重心を低く構えます。

獨山水の楽しみを専らとする

田舎にいても山水の楽しみを
ほしいままにすることが出来る

(蘇軾)